

「非認知能力」を意図的にはぐくむために

学校教育の中で、これまでからはぐくまれてきた非認知能力ですが、非認知能力の重要性が叫ばれる今、より意図的に育成することが求められています。

前号の『中丹のまなび区』では、非認知能力の概要や認知能力と非認知能力の関係について紹介しました。今回は、非認知能力をはぐくむためのプロセスの一例を提示します(①～⑤)。これらを学力向上プログラムに盛り込む等、位置付けを明確にし、全教職員でベクトルを揃えた取組とすることが重要です。

なお、非認知能力の定義やプロセスについては、岡山大学 中山芳一准教授の理論をもとにしています。



新学習指導要領では

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【小学校学習指導要領解説 第3章 教育課程の編成及び実施 3 育成を目指す資質・能力 から抜粋】

目指す子ども像の共有

① 各学校・中学校区における児童生徒の現状分析

- ◇ 各種学力調査の児童生徒質問紙や、はぐくみたい力「見える化シート」を活用し、全国や府との比較、過去の学年との比較、同一児童生徒の推移等を分析する。



- ◇ 数人のグループごとに付箋を使うなどして、子どもたちの強みと弱みを出し合う。

② 分析結果に基づき、目指す子ども像を言語化

- ◇ 学校や中学校区の教育目標を踏まえ、「○○な子」、「○○する子」のように、目指す子ども像を言葉にし、教職員で共有する。

③ 必要な要素の明確化

- ◇ ②の目指す子ども像の「○○な子」だけでは具体性に欠けるため、次の表等を参考に「○○な子」に必要な要素を明確にする。

問題解決力	論理的思考力の要素である「物事の意味を正しく捉え、自分の理解度や対応できる範囲を把握したうえで、問題解決に当たることができる力」をベースとし、自分で考え、本質的な問題を発見し、解決策を立案し、さらに、臨機応変かつ適切に対応しながら遂行(実行し成果を出す)することができる力
批判的思考力	論理的思考力の要素である「主観的な事柄と客観的な事柄とを区別したうえで、根拠に基づいて判断し、さらに、筋道立てて考えることができる力」をベースとし、他者および自分の考えに対して熟考し、先入観にとらわれずに、俯瞰的な視点から考えることができる力
協調性	異なった環境や立場にある複数の他者と、助け合ったり、譲り合ったりして、お互いを尊重し合いながら、同じ目標や目的に向かって物事を達成しようとする姿勢
コミュニケーション力	お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、受け止めたりして、信頼関係を築くことができる力
主体性	自分の意志や判断によって責任をもって行動する姿勢、および遂行しようとする意欲
自己管理能力	自分の目標や目的を達成するため、または集団のルールの中で自分の役割を果たすために、自分を律し、管理し、自己を分析することができる力
自己肯定感	自己のあり方を積極的に評価できる感覚、および自分の価値や存在意義を肯定できる感覚
実行力	「目的のために行動する力」をベースとし、自分または集団の目標や目的の方向性を適切に見極めたうえで、計画を立案し、遂行することができる力

目指す子ども像の具体化

統率力	他者の行動を統率してチームを1つにまとめ、そのチームを率いてチーム全体の目標や目的の達成のために行動することができる資質や力
創造性	突然出現するものではなく、長い年月を要する基礎的な努力に加え、熱中して物事に取り組むことや様々な経験を積み重ねた結果として築かれるもので、新奇で独自かつ生産的な発想を考え出すこと、またはその姿勢
探究心	物事の本質を捉えようとする姿勢、および本質や意義について、より掘り下げて見極めようとする意欲、および好奇心
共感性	他者と喜怒哀楽の感情を共有すること、またはそれらを感じ取ることができる感性 自然、生き物に対する愛情や畏敬の念
道徳心	道徳を守る心 善悪を判断し、善を行おうとする心
倫理観	人として守り行ふべき道、倫理(善悪・正邪の判断において普遍的な規準となるもの)についての考え方や捉え方
規範意識	道徳、倫理、および法律等の社会のルールを守ろうとする意識
公共性	価値観が違うと思われる組織、集団、社会での自分の役割を理解し、その責務を果たそうとする姿勢

出典 『「非認知能力」の概念に関する考察』 一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

④ 目指す行動事例の作成

- ◇ 次のように具体的な行動として目指す姿を明確にする。

- (例)
- ・ 幅広く、いろいろなことに興味や関心をもっている。
 - ・ 辛いことがあっても、途中であきらめずにやり遂げている。
 - ・ 相手や場面に応じて、自分の思いを表情や身振りで伝えている。

評価

⑤ 効果的な評価によって非認知能力をはぐくむ

- ◇ ④の行動事例に基づいて、適切なタイミングで児童生徒に評価を返す。

- ◇ 子どもを褒める際には、「頑張ったね」等、抽象的な言葉で終わらさず、価値のある行動については5W1Hで、具体的なエピソードとして評価する。
そのことによって、子どもたちが自身の行動を価値あるものと強く自覚できるようになる。



- ◇ 子どもたちに活動を振り返らせ、自己評価させる。文章や言葉として表現させることで、自分の行動についてより意識させる。